

株式会社 大山建工

三八地域の山で育った「南部の木」を使い、伝統構法の「木組み」と数寄屋建築を取り合わせた木造住宅が盛岡市にお目見えした。(株)大山建工(五戸町、大山重則社長)の大工衆が手刻みで建てた盛岡展示場「南部の家」だ。設計は、前田伸治氏(前田伸治十暮らし十職一級建築士事務所代表、伊勢市)。大山建工と前田氏による「大山の家」は今や東京、仙台、博多など全国に展開しており、今回、青森県産材の家を広める一環として盛岡にオープンさせたもの。南部アカマツの丸太梁と、和室の情趣が融合した「ダイナミックで上質な木の空間」をご紹介します。

「木組み」と数寄屋造り

伝統が融合した和風住宅



展示場訪問 盛岡展示場

南部の無垢材使用

南部の家



ケヤキの床板が張られた廊下の向こう、嵌め殺しのガラス越しに中庭が見える

盛岡市厨川1丁目21の30 2017年6月竣工

DATA

■延べ床面積/57.44坪(189.89㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、アカマツ(丸太梁、1階床)スギ(柱、天井、恵比寿柱、梁、階段、建具、一部外壁)、ケヤキ(大黒柱、玄関ホール床、下駄箱天板)、ナラ(プレイルーム床、子供部屋床)、クリ(一部外壁)、カラマツ(濡縁)。

盛岡展示場の駐車場から正面に、建物の全体が眺められる。右手の切妻の平屋は事務

室。そこから片流れの屋根が緩

やかな勾配で上っている左手が、展示場だ。

庭に挟まれたアプローチを玄関へ向かう。柱目が細かなス



板壁の美しい外観に“ダイナミックで上質な木の空間”へ期待が高まる展示場



スギ板張りの勾配天井を支える八角形の登り梁が力強い

ギ板の腰壁。傘を差しかけるように頭上に架かる下屋の、北山杉の丸太を桁に使った化粧小屋裏の美しさ。いかにも建築家の前田伸治氏の設計である。玄関に入る前から期待が高まる。

8寸の大黒柱はケヤキ 飴色の床板はアカマツ

「いらっしやいませ」。盛岡営業所のOさん(営業事務)が玄関ホールに出迎えてくれた。正面の嵌め殺しのガラス越しに中

庭が見えている。陽光にひかる男性的な杢目の床板はケヤキだ。下駄箱の1枚物の天板もケヤキで取り合わせている。

天井までの高さの格子入りの引き戸を、開けた。視界一杯に広がったリビングの造りに息を呑む。その手前、すぐ左手に和室(8畳)があるのだが、障子が開け放たれているので、和室もリビングと一体になって映るのだ。飴色の床板はアカマツ。無垢材の心地よさを踏みしめな





がら、リビングに入る。

ダイニング、リビング合わせ
て32畳もの大空間。そっくり吹
き抜いたスギ板張りの勾配天
井に、八角形の登り梁が現わし
になっている。9mはある1本
物が4本。それを横に受ける受
梁は、登り梁よりさらに太い直
径40cmもの丸太梁。口径の大き
な梁と梁とを組んで耐力を高

める、これが伝統構法の“木組
み”だ。

横の梁を、どつしりと受け止
めている8寸角の大黒柱はケ
ヤキ。これら長尺の丸太梁のア
カマツも、大黒柱のケヤキも、
成(高さ)が45cmもありそうな
胸差しや、リビングの角に通し
で立っている1尺角の柱(恵比
寿柱)のスギも、使う木材はみ



リビングとひと続きの和室は天井を低く抑えて
落ち着きを留めている



な自社で調達して加工できる
ところが大山建工の強みであ
る。

— 広く高いリビングと、和室—
— その木の自然味と数寄屋造
りの取り合わせが、ダイナミッ
クで上質な木の空間“を造り出
しているのだ。



障子を開放してあるにもか
 かわらず、「和風」が外へ漂い出
 ることなく8畳間に落ち着き
 を留めているのは、梁を現わし
 た天井を低く抑えているから
 だろう。その角に立つ大黒柱が
 天井で丸太梁を受け止めてい
 る。そんな太い木が造り出す
 “野趣”へ目を向けていると、
 「皆さん、木の大きさと多さに
 びっくりされていましたよ」と
 Oさんが見学会のときの様子
 を教えてくれた。



登り梁を横に受ける直径40cmものアカマツの受梁と、それを支える8寸角のケヤキの大黒柱

南部の木を手刻みして “大山の大工衆”の技で

盛岡展示場がオープンしたのは2017年6月。2日間開催した見学会には100組を超える見学者が訪れたという。「来られた方々にまず聞かれた

のは、こんなに太い木をどこから持ってきたか、ということでした」とOさん。そこが大山建工の売りだから、Oさんは胸を張って、「全部、南部の木です。三八地域の山から伐り出して、五戸町にある当社の加工場で乾燥させておいた木を、大工が

手刻みして、ここに運んで建てたんです」と答えたという。すると、次に、「どこの大工が建てたか」と聞かれ、それにもOさんは「当社の大工です。大工も社員で、30人います」と答えると、一様に「へえ」と驚きの表情になったとか。一般には工務

店で3人も大工がいれば多いほうだから、30人は大所帯なのだ。

リビングの大窓の外に濡縁（カラマツ）が見えている。その奥にある掃き出し窓は寝室らしい。キッチンから回って入ってみた。この天井にも八角形の丸太梁が1本。ベッドが2つ並んでいる足元の壁面に、細長い石を積み重ねたようなタイルが張られている。外壁タイルだそう。リビングの薪ストーブのそばの壁面に張られていたのと同じもの。そのタイルは、寝室の掃出し窓を開けた外壁とつながっているという。つまり外壁タイルを室内にも張って、内と外とに一体感を持たせているのだ。そう説明されて初めて気が付く仕上げの細やかな配慮に設計の妙がある。

寝室の入り口に立つ柱に、面取りが施されていた。柱の角を削り落とした面取り。リビングに戻ってあらためて見てみると、ケヤキの大黒柱にも、リビ



五戸町にある加工場の中で乾燥させた木材(上)と、手刻みした丸太梁を現場に搬入する前に行う地組じくみ





大きな掃き出し窓から陽光が注ぐ明るい寝室



寝室の壁には外壁と同じタイルが張られ、内と外に一体感を持たせている

ングの真壁の柱の1本1本にも、階段の手摺りにも面取りが。それらの丸みと、木肌の色合いとが相俟って、空間全体に柔らかさをもたらせているのである。

外は35℃ 室内は25℃
涼しさのカギは「遮熱」

オープンした翌月の7月に2回目の見学会を開催。1週間も続いていったという35℃の猛暑を思い出すふうにおさんが、「リビングに入ってきたご婦人が、びっくりしたようなお顔で室内を見渡したんです。涼しさに驚いたんだそうですよ。そのご婦人、建築途中も通りがかり

に目にしていたそうで、窓が大きいから、さぞかし家の中も暑いだろうと思っていたら、大違い。外よりも10℃も低い、と聞いて、またまたびっくりしていました」

そのカギは、建物の「遮熱」だ。断熱材のように熱を蓄熱するのではなく、屋根や外壁で熱を撥ね返してしまうのが遮熱。使用した厚さ8mmというアメリカ生まれの薄型遮熱シート（『リフレクティックス』）は、もともと宇宙船や宇宙服の反射絶縁材として開発されたもので、応用した大型工場や倉庫などの冷却に優れた効果を発揮。それを一般住宅に採用したのである。

その遮熱シートを、大山建工は2016年に五戸町に建てたS様邸に初めて使用した。（2017年発行『青森県産材の家』参照）。高い省エネ効果に惚れ込み、盛岡展示場にも使うことにした。室内の温度差がないから、結露もない。展示場で



屋根裏に張られている遮熱シートは、宇宙船や宇宙服の反射絶縁材として開発されたもの

は、遮熱シートを張った壁の中や屋根裏の様子が見学できるようにになっている。

遮熱の効果に驚くのは来場者だけでなく、社員の0さんも、「エアコンの設定温度は25℃で、夜に展示場を閉めるときの室温も25℃、翌朝も25℃のまま変わらないんです。休みが2日続いたときでもたった1℃しか上がっていませんでしたよ」と興奮ぎみに話した。

それだけではない。電気代がかからないのだ。屋根に設置した太陽光パネル(9・5kw)で発電し、エアコンや照明の電気代よりも売電が上回る「ゼロエネルギー住宅」。日本建築の伝統に、高い住宅性能を付加した次世代型住宅なのである。

全国各地に現場を展開 若手大工育って棟梁に

アカマツを始めケヤキ、スギ、クリ、カラマツなど南部地方の木に徹底してこだわるのが大山建工の家づくり。県産で、しかも無垢材。手カンナをかけ、墨付けし、ノミで刻むのが大工としてのプライドなのだ。10余年前に前田氏の提案から始まった木組みと、数寄屋造りを融合させた『大山の家』は、今や全国に展開。仙台や東京、千葉、博多などの現場へ五戸の加工センターから木材を陸送し、現地に長期滞在しながら、中里政義棟梁率いる「大山の大工衆」の技で1軒1軒納めてきた。

前田氏と大山社長の出会いを取り持ったのが「茶室」。大山社長がこう振り返る。「35年ほど前になります、ある方から茶室を作ってほしいと頼まれたんです。その茶室を設計したのが数寄屋建築の第一人者の中

村昌生先生(京都工芸繊維大学名誉教授)で、京都に中村先生を訪ねて行きました。先生を中心に数寄屋師らで設立された財団法人・京都伝統建築技術協会に入会して、そこで前田先生と出会ったんです」

前田氏と大山建工による最初の現場は、仙台で建てた数寄屋建築の木造住宅であった。それをきっかけに一緒に仕事をやるようになる。前田氏は、南部地方に豊富にあるアカマツに目を留めた。美しい木肌を生かしたアカマツの丸太梁と、数寄屋造りの風情とが、ダイナミックな中にも日本人の琴線に触れてくる繊細さが融け合った、上質な木の空間を生み出したのである。

盛岡展示場を取材する事前の打ち合わせで、大山社長が感慨深げにこう話した。「若手の細越(克憲)が展示場の棟梁を務めたんですよ。中里棟梁(現代の名工)の一番弟子です。20ないみな15年に完成した八戸の『内舟

渡展示場』も彼でした。まだ32歳だけど、18歳で入社して以来ずっと中里の下で修業を積んで、棟梁を任せられるまでに成長してくれました」と。福岡の『料亭嵯峨野』の現場にも「大山の大工衆」の一人として入った。まだ20代だった。嵯峨野が第25回福岡県美しいまちづくり建築賞大賞を受賞(2013年)し、地元テレビ局が取材することになった。

「インタビューを受けた細越が、途中で泣き出したんですよ。まだ新婚で、生まれたばかりの赤ちゃんもいるのに、八戸から遠く離れた福岡にいる。話しているうちに、恋しさが募って込み上げたんですよ」。人間が純粹だから、と大山社長は父親の口ぶり付け加えた。

大はしゃぎの子供たち 手で足で木に触る喜び

リビングと対面するキッチンを通じて、洗面室に入る。窓から正面に、中庭を挟んで和室が



リビングと対面するキッチンアイランド型の開放感あふれるスペース

見えた。室内のどこからも壁で遮られることなく、それぞれの空間が互いに視線の先にある。和室からはLDKの全体が見渡せ、階段が見え、リビングからは和室の床の間が見え、吹き抜けを通して2階も見上げら

れる。一体となった空間づくりが開放感を与えるのだ。

分厚い踏み板の透かし階段を上がっていく。そこから間近に見るケヤキの通し柱、登り梁の力強さ。100年以上も山の風雪に耐えて育った野生の生命力が伝わってくるようだ。

プレイルームと、続きの子供部屋の床板はナラ。仕切る引き戸の板戸も、物入れの戸もスギの1枚物だ。建具やフロアリングを自社で制作するのも大山建工のこだわり。子供部屋の天井にも太いスギの梁が組まれている。本棚はケヤキ。木に囲まれた環境で子供は勉強に打ち込めるだろう。そうOさんに話しかけると、「見学会では子供たち、大はしゃぎで走り回っていましたよ」と笑った。学ぶより遊ぶほうが先のようなのである。その見学会のときに、こんなことがあったとOさんは話す。「玄関に入ってきた幼い女の子が、いきなり泣き出したんです。お母さんが言うには、他の



会社のショールームで、触らないでください、って注意されたのが怖かったんでしょね。また叱られるんじゃないかって。いっぱい触っていいんだよ、って女の子に言ったら、もう笑って走り回る。運動会でしたよ。手摺りにつかまりながら階段を上がっては下りて、下りてはまた上がって下りて……。その女の子ばかりじゃないんです。来た子供たちみんながそうでしたよ。木って、子供にとっては喜びなんですわね」

新幹線が盛岡駅を発車。間もなく、窓の左前方に、来たときには雲に覆われていた岩手山が姿を現わしていた。あと2か月もすれば頂上が初冠雪し、やがて白く覆われ、また巡ってくる春には、盛岡市内のどこから、『大山の家』を建てる槌音が響いてくるのだろう。

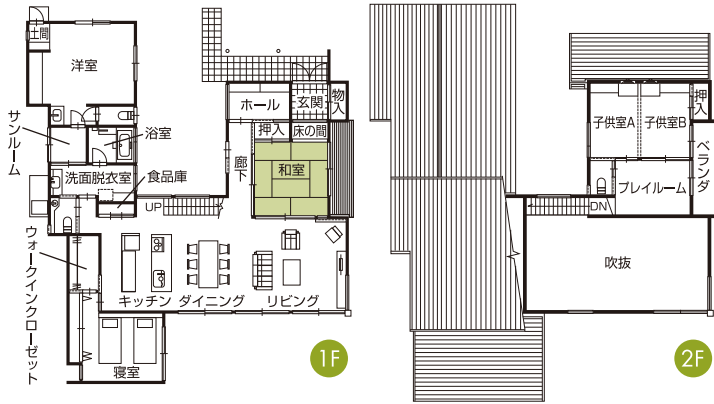
(写真提供/㈱大山建工)

大山慎司盛岡営業所長
(専務兼のコメント)

私たち大山建工は、「真心こめた家づくり」を理念において、無垢の材と熟練の職人の技を駆使してお客様に住まいを



プレイルームとスギの1枚物の引き戸で仕切られた子供部屋



■1階床面積 / 154.46㎡(46.72坪) ■2階床面積 / 35.43㎡(10.72坪)
 ■延床面積 / 189.89㎡(57.44坪) ■建築面積 / 166.49㎡(50.36坪)

提供しています。今回の盛岡展示場は、そんな当社の理念を形に表すことが出来たと思います。南部地域の豊富な材を使用し10mもある丸太を職人の技で加工、組み立て、木の持つ本来の耐久性、柔軟性、美しさを表すことが出来ました。是非、展示場に足を運んで頂き体感して頂ければ幸いです。



- 盛岡展示場・営業所
 盛岡市厨川1丁目21の30
 電話 019-60117311
 10時〜17時
 定休日 / 毎週水曜日および第2、第4木曜日
- 展示場の特徴
- ① 高耐久性の100年住宅
 - ② 南部地方の木(無垢材)を使用
 - ③ 従来の地震への強度が4倍にもなるダンパーを採用
 - ④ 最先端の断熱資材(遮熱材)を使用など。



株式会社 大山建工

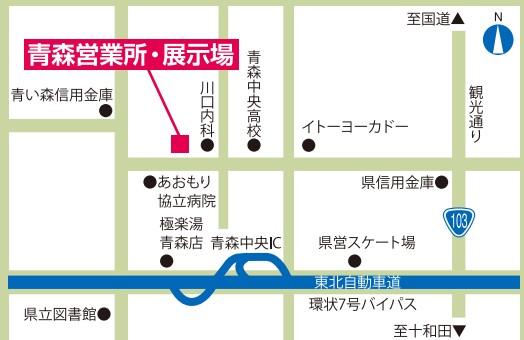
本社 ● 三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
 TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本部 ● 八戸市大字河原木字千刈田7-1
 TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

内舟渡常設展示場 ● 八戸市長苗代字内舟渡84-13 産業道路沿い

青森営業所 ● 青森市東大野1丁目8-3
 TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488

盛岡営業所・展示場 ● 盛岡市厨川1丁目21-30
 TEL.019-601-7311 FAX.019-601-7134



株式会社 大山建工



構造見学会

慧然寺「庫裡・書院」

DATA

東京都江東区深川2-22-11

■延べ床面積 / 140坪 (462㎡)

■使用青森県産材 / 栗(土台)、杉(外壁腰壁、柱、床柱、天井板、格子、化粧小屋裏)、赤松(破風、床、丸太梁、床柱)、樺(式台)。

“青森の木”が選ばれた 深川で庫裡・書院建設

青森県産材100%使用の「庫裡・書院」が、東京・江東区深川の臨済宗円覚寺派慧然寺^{えねんじ}で建設中だ。江戸時代から貯木場として全国から木材が集められた歴史ある深川で、住職の住まいである庫裡と書院の建築材に「青森の木」が選ばれたのだ。建てているのは(株)大山建工(五戸町、大山重則社長)。反り屋根の破風には南部赤松、外壁の腰壁には細かな柂目の杉、1尺5寸(約45cm)で12mもある南部赤松の丸太梁、一枚ものの樺の式台など、全て県産材。12月(2017年)初め、現地で開催された「構造見学会」で本県の木材の良さと大工の技の高さが披露された。

構造見学会を主催したのは、NPO法人「あおもりの木で地域を支える伝統と技術の会」(大山重則会長)。八戸から森林組合や建築関係者など約50人が参加した。

建物は2階建て、延べ140坪(462㎡)。別伝和尚開山350年遠忌^{おんき}(50回忌以上の年忌を遠忌と呼ぶ)の年(2017年)となる記念事業として庫裡・書院の建て替えを含む境内全てを整えるもので、建築家の前田伸治氏(前田伸治十暮らし十職一級建築士事務所代表、伊勢市)が設計を依頼された。施工は、前田氏と一緒に全国に青森県産材の家づくりを展開している大山建工。南部赤松の丸太梁を組み合わせる「木組み」と、数寄屋建築の繊細な情趣が随所に遺憾なく発揮されることになった。

見学会の当日、午後2時。大工たちが作業の手を止め、清掃に取り掛かった。間もなく見学者の団体がやってくる。てきば



玄関前の下屋に架けた太い南部赤松の桁。化粧小屋裏の杉の柂目が美しい

きと立ち働く大工たちのそばに、中里政義棟梁と細越克憲副棟梁の姿があった。図面を手に細越氏が中里棟梁に近づく。細部の納めについて中里棟梁に指示を仰いでいるようだ。門外漢には立ち入れぬ職人の世界のやりとりである。

新人大工たちを中心に現場は見る間に片付いていく。その機敏な作業ぶりに中里棟梁は、「生き生きしてるね。ふつうの住宅の現場にはない生き生き感だな。いま流行りの家みたい



反り屋根の破風は南部赤松。桁や柱は杉。外観からだけでも木肌が美しい無垢材をふんだんに使っていることが分かる。室内の丸太梁や床、壁、天井など建物全体の材積となると一般住宅の10倍に上るとい



「寄付」の床の間に立つ南部赤松の皮付きの床柱

にボードの上にクロスを貼るという「隠す」作りじゃないからな。構造材がそのまま仕上げ材になる。だから扱いに神経を使うし、技術的にも難しいけど、そのぶん学ぶものがいっぱいあるから張り切るんだ。こういう本物の木の建築が大工を育てるんだよ」と目を細める。

部屋に來客をいったん通し、そこから、「主庭」が眺められる「入側」を伝って、家屋の最も奥に位置する「書院」へ導かれる。「そこに立っている床柱をよく見てください」と大山社長が指を差す。和室とはいえまだ畳も障子も入っていない、がらんとした空間ではあるが、「床の間」に立つその床柱には存在感があった。近づいて見ると、布の繊維のように目が細かく詰まった見事な杉柢だ。大山社長が説明する。

到着した一行が、玄関に入る。靴を脱いで上がった式台が檜。幅2尺(約60cm)もある分厚い一枚ものだ。中庭がある廊下の突き当たりの和室が「寄付」。

「正面も、右も、左も……、4面

とも柱目なんです。これを四方柱と言います。滅多にお目にかかれぬ床柱なんです。南部の山に生えていた250年もの天然杉から取りました。この4寸5分角を1本取るのに、直径80cmの丸太を6本も潰して、ようやく1本取れたんです」

それほどに四方柱を取るのには難しい。前田伸治氏が、「京都から取り寄せようか」と手を差しのべたのを、大山社長はあくまでも地元「南部の木」にこだわったそうだ。頑なまでのこだわりが、おとなしく立っていないながらも揺るぎない「存在感」を与えているのだろう。

前田氏と大山建工とによって造り出される「ダイナミック



四方柱の床柱の木口。4面とも柱目になるよう大径丸太の芯を避けた目の詰まった所を斜めにして角材を挽く



2階リビングの勾配天井にも八角形の登り梁

で上質な木の空間”のシンボルが、南部赤松の八角形の丸太梁だ。庫裏の正面にも、玄関にも、2階のリビング、納戸に至る構造材全般に使われている。長いもので12mもある長尺の大径木を何十本も「組む」からこそ強い耐力が備わるのだ。

現地に長期滞在しながら作業をしているのは、20代から60代までの「大山の大工衆」16人。棟梁は中里政義氏だが、中里氏はこの現場ばかりでなく、また五戸町にある木材加工工場とを往復する多忙な身のため、庫

裏に常駐して実質現場を取り仕切っているのは細越克憲副棟梁だ。18歳で大山建工に入社、中里棟梁の一番弟子として腕を上げ、大山建工盛岡展示場（2017年竣工）の現場で棟梁を務めるまでに成長した。

大山建工が毎年新人を採用するのは、山の木と同様に「若手大工」を育てるためである。第55回技能五輪全国大会（2017年）には、大山建工から2人が青森県代表として建築大工部門に出場した。大工を指して大山建工の門をたたいた石川県出身の若者がその1人だ。現代の名工である中里棟梁のもとで、互いに切磋琢磨し、精進を重ね、「大山の大工衆」を受け継ぐ技を磨いていくのである。

山には大径木が豊富に 家1軒の木が全部揃う

使っている木材は全て無垢材。ベニヤの貼り物などは1枚もない。建具までそうだ。それ

ら全てが「南部の木」で、材積は一般住宅の10倍にも上る。前田伸治氏は、「木場」に近い深川での建築材に選ばれるほど青森の木は良材であることを、見学会の後の講話で、こう述べた。

「青森の山は元氣だ。樹齢が100年を超えた大径木が豊富にある。しかも樹種が豊富。ヒバ、杉、赤松、樺、栗……なんでもある。九州も森林県だが、以前、九州の山を県の森林担当者として1週間ばかり歩き回ったときには哑然とした。山が荒れてしまっていた。林業がもう成り立たなくなっているんですね。そこへいくと、1軒の家を建てるのに必要な木が、一つの県に全部揃っているなんて今や青森ぐらいい。これはもう「宝物」だ」と賛辞を惜しまない。

前田氏はまた、「木の家は、工業製品ではない。ホンモノの木という生きものを扱うからこそ、あたたかな無垢材の手応えや、魅力ある木肌が生きていく。生きている木だからこそ人

の気持ちが入り込む。杢目、柃目の美しい無垢材を、大工が熟練の技で建ててこそ優れた木造建築だ。“木の家”を存続させるには良い建築を建てることに



2階の納戸の天井に架けられた赤松の太鼓梁



加工場で赤松の丸太から太鼓梁を木作りする



上棟式で全員法被をまとった“大山の大工衆”。(前列左から3人が中里棟梁。その真後ろが細越氏)

目指すは細越さん——。目を輝かせてきつぱり言い切った。

「すごいっすよ。年上の先輩大工が、(細越さんに)納めとか聞きにくるんですよ。それって、すごいじゃないですか。技術もそうだけど、そういう先輩たちをまとめていくというのもすごいですよ」

尽きる。まさに大山建工がそれを実践している」と強調した。庫裡・書院が完成するのは2018年1月の予定。それまで大工たちは現場近くの宿舎で寝泊まりして仕事を続ける。同部屋の新人大工が、副棟梁の細越氏をこう崇める。

真んこめたてつづみ



株式会社 大山建工

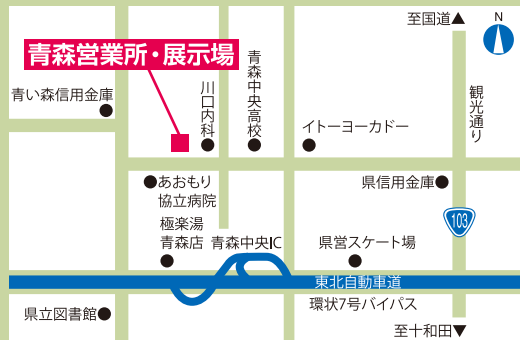
本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
<http://ooyamano-ie.jp/>

内舟渡常設展示場 ●八戸市長苗代字内舟渡84-13 産業道路沿い

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488

盛岡営業所・展示場 ●盛岡市厨川1丁目21-30
TEL.019-601-7311 FAX.019-601-7134



有限会社 キーポイントホーム



ユーザー訪問 A様邸

DATA

青森市篠田 2017年2月竣工
 ■延べ床面積/35.12坪(116.34㎡)
 ■使用青森県産材/〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁) 〈内装材〉スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(造作建具、カウンター)、タモ集成材(階段、造作本棚)。

玄関ドアからリビングへ続くタイル貼りの土間に、黒色の薪ストーブが鎮座するA様邸。煙突が伸び立つ吹き抜けの天井にはシーリングファン。——そこまでの造りなら他社の住宅でもお目にかかるが、見た目のデザイン性だけに留まらず、薪ストーブの熱を有効利用する省エネ性を付加させたところがキーポイントホームの家づくり。そのしくみは、吹き抜けを見上げると分かる。2階ホールの手摺りの、さらに上にも、手摺りがある。実はそこがロフトになっている。上昇した暖気が、横長の暖気ダクト(通路)のようなロフトを通して奥の寝室にも行き渡るようになってい

薪ストーブ熱を有効利用
省エネの「低炭素住宅」



薪ストーブの熱が家中に行き渡るように設けられた吹き抜け

——ロフトはご主人の要望だとか。

ご主人の話 私、転勤族なものですから、移動になったときにすみやかに単身で引越せるように、まとめた荷物を置いておく場所がほしかったんです。それで阿保さんにお願ひしたら、提案してくれたのがロフトでした。

阿保勝之社長の話 屋根が切り妻ですから、ロフトを作るにはへの字型の勾配が打ってつけです。ロフトは、2階のホールの上から奥の寝室まで続いている

ので、それを暖気ダクトに利用して薪ストーブの熱を取り込むようにしたんです。寝室だけでなく、ロフトの途中の壁面に小窓をつけて、そこを開ければ隣のお嬢ちゃんの部屋も暖まるようになっていきます。

——A様邸は国が推奨する低炭素住宅として補助金の交付を受けられたそうですね。

阿保社長の話 一般住宅から排出されるCO2の排出を抑制するため、国交省では「地域材の使用」を前提とした「地域型住宅グリーン化事業」を展



ロフトの左側の小窓を開けると子供部屋にストーブの暖気が流れ込む

開いています。その中の、所管
行政庁（都道府県、市又は区）
が認定した「高度省エネ型住
宅」（認定低炭素住宅）に建築
費の一部を支援する補助金が
支給されるのです。低炭素住宅
に該当するかどうかの判断基
準となるのが断熱・省エネル
ギー性能（低炭素化に資する
建物）で、それを表す指標がU
A値（外皮平均熱還流率）で
す。窓など各部位から逃げる
熱損失を合計し、外皮面積で

割って求めるもので、木質繊維
の断熱材（セルローズファイ
バー）を充填させたA様邸のU
A値は $0.3\text{ W} / \text{m}^2 \cdot \text{K}$ （青森
市の基準性能値は $0.75\text{ W} / \text{m}^2 \cdot \text{K}$ ）です。この数値が小さ
いほど断熱性能の良さを表し
ています。A様邸ばかりでな
く、弊社が年間に施工する住
宅のうち3軒ほどは低炭素住
宅です。

—— A様とキーポイントホー
ムとの出会いは？

奥様の話 「あ、こんな感じ」つ
て、要望するイメージの家と出
会ったのはインターネットでし
た。それがキーポイントホーム
の展示場だったんです。土地探
しと併せていろいろ展示場とか
見学会の住宅を見て歩いてい
ましたけど、ほとんどが白っぽ
いクロスばかりで、明るく清潔
感はあるものの、いまいちでし
た。なぜなのか、ネットでキーポ
イントホームの展示場を見た
ときに気が付きました。「木」
だったんです。自然の木つて、柔



スギの無垢材の空目と白壁が美しいコントラストを描くリビング



玄関の内の引き戸の手前に付けたシンク。汚れを家の中に持ち込まないので機能的

らかそうで、温かそうで、かわいらしさがありますでしょ。床も壁も天井も室内全部が「木」なら圧倒されてしまいそうですけど、ほどよく部分的に使った「木」には、かわいらしさを感じます。見学に行ったのが20

16年の3月でした。地元のスギを使ったという室内は、ネットで見たとおりに柔らかく、温かくて、住んでいるアパートとは違う木の床のリビングをはしゃぎ回る娘を見て、キーポイントホームと決めました。

地域の家には地域の木 気候に適するから育つ

—— ずいぶんと土地を見て回ったそうですね。

奥様の話 買ってしまえばそこですつと暮らさなきゃならぬいし、高い買い物だし、あれこれ考えると慎重を通り越して怖くなってきたりしてね。それで、専門家に同行してもらえばその土地が家を建てるのに

ふさわしいかどうか判断してくれるでしょうか、阿保さんをお願いしたんです。阿保さん、そのたびに弘前から来てくれて、目星を付けた土地を車であちこち案内してくれました。全部で40か所くらいは見ましたね。正式にキーポイントホームと契約を交わしていたわけではないにもかかわらず、阿保さんは、ほんとうに親身になって探してくれまし



子供にもやさしいスギの無垢材の床板

た。真正面からわたしたちに向き合ってくれたからこそ、わが家を実現したんです。
ご主人の話 初めて展示場を訪ねたときに、阿保さんからいろいろ説明を受けた中で、なるほど、と思ったのは、地元の木の話でした。地域の山の木は、その地域の気候に適しているからこそ育っているわけで、その地域に建てる住宅に最も適した



隠れ家のような雰囲気を楽しめる子供部屋(左)と寝室

木だ——というお話。なるほど、言われてみればその通りです。青森県の気候に適しているからこそリンゴが育つわけで、そこに暮らす人間だって同じ環境の中にいるわけだから、地元の人にないのならいざ知らず、なにも外国の木を使うことはないわけですよ。

奥様の話 「県産材」といえば、地元の米とか野菜とかの農産物というイメージが強かったんですけど、「木」も「県産材」の中に入るんですね。それを実感したのは、わが家の足場に掲げられたキーポイントホームのシートでした。シートの真ん中の『あおもりの木で家を建てる』の左側に、例の青森県のゆるキャラの『決め手くん』が描かれてあつたんです。『決め手は、青森県産』の軍配を手に笑っているカワイイ決め手くんを目にするたびに、自分の家づくりが青森県に応援されているように、心強かったですよ。

(写真提供/陶キ-ポイントホーム)



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail : staff@ki-pointhome.com



「あおもり産・木の家」常設展示場

有限会社 キーポイントホーム



ユ一ザ一訪問

竹中 様邸

DATA

弘前市中野 2016年11月竣工
 ■延べ床面積/37.75坪(125.03㎡)
 ■使用青森県産材/〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁)〈内装材〉スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(造作家具、カウンター)、タモ集成材(階段)。

どの工務店に頼むか。どの工務店で、どんな家を建てるか——。家づくりにおいて誰しも通らなければならぬ関所のようなものがこの「業者選定」だ。決めるにはまず見てみないと判断できない。手っ取り早いのが住宅展示場。竹中様の奥様は、展示場をめぐるバス見学ツアーに参加した。最初に訪れたのが(有)キーポイントホームの泉野展示場『地域ブランドの家』。三角屋根が目が惹かれた。三角屋根なのに無落雪屋根だと聞いて、ときめいた。奥様の要望はなによりもまず屋根が三角の家、であったから。四角い箱型ではない、念願の無落雪屋根に出会ったのだ。

雪が落ちない三角屋根 出会った念願の無落雪

——弘前市内の展示場を見て回られたのですか。

奥様の話 そうです。大手と地元あわせて5社でした。1年後に迫った主人の定年退職に合わせて建てる計画でしたから、それまでも個人的に見学はしていたんですよ。でも、どの展示場もみな立派で、立派過ぎて、生活感が感じられませんでした。それと、中2階に部屋を取った展示場もあったけど、足腰がだめになれば階段の上り下りができなくなりますから

ね。安全で安心して暮らせる家がいちばんです。屋根の雪のこともそうです。年老いて雪下ろしとか雪片付けなんてまっぴら。そうなると四角い無落雪屋根ということになるんだけど、あの四角い屋根はどうもね。やっぱり三角のほうが家らしい屋根ですよ。でも三角屋根だと雪が落ちるし……。

——そんなときにキーポイントホームの三角屋根に出会ったというわけですね。

奥様の話 (大きくうなずい



スギの優しい木肌が出迎えてくれる玄関スペース



リビングの床に張られたスギの柔らかく温かな触感が奥様のお気に入り

て)真っ先に聞いてみたのが屋根の雪のことでした。そうしたら、『スノーストックパルーフ』といって、雪が落ちない屋根なんだそうです。屋根のトタンに「棧」のようなものが横並びに何列も付いていて、それが雪止めの役目をするのでしよう。「屋根に勾配があるから、風で雪が飛ばされて平らな屋根より積もりにくいんです」と説明してくれたのが阿保さん(阿保勝之社長)でした。

—— 展示場の中はいかがでしたか。

奥様の話 床の板が良かったですね。足の裏が柔らかくて、温かくてね。床も、壁も、天井にも「木」が張られていて、それが「地元のスギ」なんだそうです。明るい色で、「かわいい」感じでしたね。香りも良かったし。阿保さんが、説明の中で強調していたのは「地元のスギを使っている」ということでした。地元の山で育った木が同じ地域に建てる家の木には最適なんだと。

言われてみればそのとおりですけど、それまで考えてみたこともありませんでした。「県産材」と聞いても「木」のことだとは思いませんでしたし、そもそも「木」については関心の外でしたね。工務店にお任せすれば家は建つんだらうと。でも、阿保さんの話を聞いてからは、ここから見える山の木で家が建つんだなって、「近くの山」に親しみを覚えるようになりましたね。

—— 郊外にある実家に暮らしていたそうですが、建て替える計画はなかったのですか。

奥様の話 築50年になる昔の家ですから、とにかく寒くてね。建て替えの考えもなくはなかったんですが、問題は場所でした。いずれは車を運転できなくなるのですから、そうなったときに、買い物とか、病院通いには街なかの方が便利に決まっています。阿保さんは、建て替えれば土地をかう分、家にお金がかかります。阿保さんは、建て替えられられる、と親切心でアドバイスをしてくれましたけど、老後は

確実にやってくるのだから、やはり街なかに移ろうと決めました。

地中熱利用の最新暖房 省エネ性高い長期優良

——竹中様邸は長期優良住宅

として国から補助金の交付を受けられたそうですね。

阿保社長の話 国交省では、

木造住宅の生産体制の強化と環境負荷の低減を図るために、「地域材の使用」を前提とした「地域型住宅グリーン化事業」



壁の白と畳が美しいコントラストを描く和室

を展開しています。その中の、所管行政庁（都道府県、市又は区）が認定した「長寿命型」（長期優良住宅）に補助金が支給されるのです。

長期優良住宅に該当するかどうかの基準は——①主に耐震等級性能が2以上（建築基準法レベルの1・25地震力に対して倒壊しない構造）②省エネルギー基準（H25年改正省エネ基準）に適合していること③断熱・省エネルギー性能——で、それを表す指標がU A値（外皮平均熱還流率）です。窓など各部位から逃げる熱損失を合計し、外皮面積で割って求めるもので、充填断熱と付加断熱を組み合わせたダブル断熱工法の竹中様邸のU A値は0・28 W/m²・K（弘前市周辺地域の基準は0・56 W/m²・K）です。この数値が小さいほど断熱性能が高いのです。

——暖房も地中熱を利用した最新方式を採用したそうですが、阿保社長の話 地中熱と空気

熱を併用したハイブリッド温水暖房システムです。弘前市周辺の地中50 mには常時13℃（



ハイブリッド温水暖房システムによって温められた温水をパネルヒーターに循環させている



リビングとひと続きのゆったりとしたキッチンスペース

15℃の熱が蓄えられています。それを利用してところがミソで、地中を掘削して不凍液が循環する管を埋め込み、熱交換によつて不凍液に伝わった地中熱をさらに空気と熱交換させ、ヒートポンプで圧縮して暖めます。この熱で温められた温水をパネルヒーターに循環させるという、自然界の熱を余すところなく取り入れた理想的な省エネ暖房なのです。

——ひと冬越された住み心地はいかがですか。

奥様の話 どの部屋もあつたかくて、前の家とは大違いですね。それと、特に重玉しているのは「食品庫」で、リンゴを置いておいても、そこだけは断熱せず外気と触れるように阿保さんがしてくれましたから、いつまでも新鮮で長持ちします。土地探しも、家のことも全面的に阿保さんにお任せしました。バス見学で最初に引き合わせてくれた”縁”に感謝しています。

(写真提供/陶キ・ポイントホーム)



有限会社 **キーポイントホーム**

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail : staff@ki-pointhome.com



「あもり産・木の家」常設展示場

有限会社 キーポイントホーム



2017年度第10回あおもり産木造住宅コンテスト
最優秀賞受賞

ユ一ザ一訪問

藤田 様邸

DATA

弘前市国吉 2015年10月竣工
 ■延べ床面積/45.61坪(151.11㎡)
 ■使用青森県産材/〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁)〈内装材〉スギ無垢材(床、壁、天井)、ヒバ羽目板(物入壁)、スギ集成材(造作家具、カウンター)、タモ集成材(階段、キッチンカウンター)

その日、藤田様邸の玄関に靴があふれていた。リビングに立ち並んでいる面々は、2017年度第10回あおもり産木造住宅コンテストの審査委員たち。応募作品を書類審査して絞り込んだ候補作の現地審査に訪れたのだ。一般に審査委員に対してその住宅の特徴や性能などを説明するのは工務店サイドだが、藤田様邸では、違った。冬に通常20℃に設定している室内温度が、暖房を止めて朝になっても1℃しか下がっていない——とアピールしたのはご主人であった。(有)キーポイントホームで建てた自宅の高断熱・高気密性に驚いた、という「生の声」には説得力があった。

夜と朝の温度差が1℃
断熱に護られた暮らし



現わしの梁が開放的な空間を演出するリビングの吹き抜け

阿保勝之社長の話 藤田さんと再会したのは高校卒業以来で、30年ぶりでした。お互いに咄嗟に出たのは「おお！」「しばらく！」でした。同級生だった頃に戻った気分でしたね。

ご主人の話 阿保さんとの見学会に行ってみたくてです。阿保さんが住宅のキーポイントホームを営んでいるということとは耳に入っていました。新聞に載っていた完成見学会の広告が目に残ったんです。そろそろ建て替えようかと妻と話し

ていたのですが、まずは阿保さんのこの住宅から見学してみました。阿保さんにはもう正直に話したことですけど、その家、私も妻も、あまり好みじゃなかったんですよ。床とか腰壁とか、天井にも張られている「木」の存在感があまりすぎて、圧迫感を覚えたんです。私の友だちの家もたいがいクロス貼りの白っぽい家だったから、なおさら「木」が迫るように映ったんです。妻も同じ感想でした。



2階から見下ろしたリビング。天窗と大窓からふんだんに陽光が射し込んでいる

奥様の話 それから2か月の間に3社の住宅を見学しました。その3社とも、いまいちしつくりきませんでした。内装を眺めた室内は暗かったし、カフェみたいにもダンだけど生活感がなかつたりね。すると、初めはくどく感じたキーポインホームの家の「木」が明るくて、

妙な重さだと思うんですよ。軽すぎず重すぎず……。厚さが42mmのスギの手作りなんだそうです。手ごたえある引き戸を開けて入ったからこそ、中の空間に一段と開放感を覚えたのでしよう。わが家にも同じ戸を付けてもらいました。

木肌がきれいで、柔らかくて温かく思われてきたんですよ。それで泉野にある常設展示場を訪ねてみたんです。

ご主人の話 見学会の家とはイメージが大違いました。開放感がありました。太い梁が組まれた天井が見える吹き抜けの開放感。見学会の家にも吹抜けはあつたけど、展示場になぜそう強く感じたかという、リビングの入り口の引き戸を開けたときの、絶



四季折々の庭が眺められるリビングの大きな開口部

無垢材と漆喰の蓄熱性 心からくつろげる空間

——夜と朝の温度差が1℃と
いうことです。

「ご主人の話 室内温度はいつ
も20℃に設定していて、夜10



山小屋のロフトを想わせるご夫婦の寝室。斜めになった天井板を眺めると落ち着くという

時にパネルヒーターの暖房を
切つて寝るんですが、朝6時
で1℃しか下がっていません
です。外が氷点下に冷え込ん
でいた夜は、24時間換気から多
少冷気が入ってくるらしく朝
に2℃下がっていたので、冷え

る晩は換気を消す
ことにしたんです。
そしたら、下がって
もせいぜい1℃で
す。この家で暮らし
て2年になります
が、今では20℃か
ら1℃上がっても
暑く感じるん
です。温度計を見

みると、やはり21℃です。逆
に、ちよつと寒いなと思うと
19℃。たった1℃の違いも敏
感に感じ取れるほどに断熱・
気密が均一だということじゃ
ないですかね。

阿保社長の話 ダブル断熱
施工の藤田様邸の住宅性能を
数値で表すと、藤様邸のUA
値（外皮平均熱貫流率）は0・
28 / m²・K。気密性能のC
値は0・2 cm / m²で、いずれも
数値は小さく、断熱・気密性
が高いことを裏付けていま
す。それと、窓ですね。リビン
グの窓を大きくして四季折々
の庭を眺めたいという藤田様



階段下のヒバの板が張られた収納室。ヒバの香りが室内へ
漂い出る

の要望に応じて、断熱性の高
い木製回転窓（1・5 m × 1・
5 mの正方形）を2か所と、
他の樹脂サッシにもすべて3
枚のトリプルガラス（特殊ガ
ス入り）を使用しています。そ
れに加えて、無垢材と壁の漆
喰の「蓄熱性」が暖かく包み込
んでくれているのです。

奥様の話 外から風除室に
入ると、ほつかり暖かいんです
よ。風除室のアルミ製の引き
戸の中に給湯器があって、その
表面温度（約30℃）が伝わって
くるんです。これ、阿保さんの
提案で、そこに給湯器がある
とないのでは大違いです。それ



パン教室『わんつかだばって』の室内



幅が広くて、使い勝手がいいというタモのキッチンカウンター

と、階段脇のドアの中が物入れ兼、わたしの部屋なんです。壁にヒバを張ってくれたので、窓を開けておくと、室内にヒ

バの香りが入ってくるんです。清々しい香りは家族みんなのお気に入りですよ。それから、全然音がしないんです。以前

の家なら除雪車の音が筒抜けだし、地震みたいに揺れたけど、今は音も振動もまったくありません。救急車のサイレンも聞こえませんしね。心からくつろげる家ですよ。

—— キッチンの木のカウンタ―を、奥様は重宝されているようですね。

奥様の話 そうそう、この木（タモ集成材）のキッチンカウンター、幅が広くて、使い勝手がいいんですよ。教室にいるようなものです。実は、パン教室（注）を開いているんです。自然酵母を使った体にいいパンづくりのね。『わんつかだばって』とパソコンで検索していただければご覧になれます。“健康”を発信したくて始めたんです。健康でないと住まいの快適さも味わえませんから。（写真提供／旬キーポイントホーム）

注：白神こだま酵母のパン教室『わんつかだばって』

弘前市紺屋町87-1

Mail:wantsukadabatte@gmail.com



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail : staff@ki-pointhome.com

